

業の拒否を明示することであつたとし、後者では、町奉行所による看板の設置規制の目的を、火消が通行する障害となるか否かという観点から検討している。さらに、火消との関連から、町人の自己防衛を考へるため、木戸門に関して前著以降に得られた知見も、併せて述べている（第十・十一・十二章）。

そして、以上の成果を時系列に沿つて並べ、近世京都の町家の建築を踏まえつつ、火消の制度と実状を総合的に考察すること、で結論を導いている（結章）。

「鬼神のごとし」と評された火消衆を多面的に解明した本書は、消防を焦点としながら、都市住民と為政者の関係を、建築物の特質に配慮しつつ捉えた点に研究史上での意義を見出すことができる。また、都市に関心を持つ者にとっては、分析方法や発想を得る上で一つの道標とならう。是非一読をお勧めしたい。

(A5判 五〇四頁 二〇一二年二月  
昭和堂 税別七〇〇〇円)  
(石津裕之 京都大学大学院文学研究科修士課程)

会 告

去る六月二一日に開催されました史学研究会理事・評議員会におきまして左記の事項が可決、承認されましたのでご報告申し上げます。

記

一、平成二十三年年度決算報告

一、平成二十四年度予算案

一、役員の変更

1、退任

理事 長 夫馬 進 (↓理事)

常務理事 金澤周作

理事 吉井秀夫 (↓評議員)

理事 上原真人 (↓理事長)

井谷鋼造 (↓常務理事)

金坂清則、藤井讓治、

森 時彦

監 事 岩井茂樹 (↓理事)

評議員 米家泰作 (↓常務理事)

小関 隆 (↓監事)

井上浩一、植村泰夫、

小林 茂、桂川光正、

杉橋隆夫、吉田伸之

編集委員 上杉和央、鍛冶宏介、

溝上宏美

庶務委員 上野大輔、小野容照、

河野正訓、権潤 永、

米澤亜実

2、新任

理事 長 上原真人 (↑理事)

常務理事 井谷鋼造 (↑理事)

理事 米家泰作 (↑評議員)

理事 夫馬 進 (↑理事長)

岩井茂樹 (↑監事)

高木博志、横田冬彦

監 事 小関 隆 (↑評議員)

評議員 金澤周作

理事 吉井秀夫 (↑常務理事)

石川禎浩、大野晃嗣、

佐藤 信、根津由喜夫、

林 和生、美川 圭

編集委員 井上 治、黒岩康博、

柴田陽一

庶務委員 鈴木健雄、妹尾裕介、

本庄総子、宮崎涼子、

横大路綾子